

平成 21 年 3 月 31 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2005 年度～2008 年度
 課題番号：17401020
 研究課題名（和文）：英仏所蔵敦煌・吐魯番出土漢文文献の古文書学的比較研究
 研究課題名（英文）：A comparative paleographical study of ancient Chinese manuscripts excavated from Dunhuang and Turfan, owned by U. K. and France
 研究代表者：
 関尾 史郎（SEKIO SHIRO）
 新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
 研究者番号：70179331

研究成果の概要：ロンドンの大英図書館所蔵の敦煌・吐魯番出土漢文文献、パリのフランス国立図書館所蔵の敦煌出土漢文文献について実見調査を行い、形態・様式・内容などの面から多角的に検討を加えた。またその成果を踏まえて、中国や日本の国内に所蔵されている敦煌・吐魯番出土漢文文献の再検討と再評価を行った。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	2,600,000	0	2,600,000
2006 年度	2,200,000	0	2,200,000
2007 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2008 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
総計	8,800,000	1,200,000	10,000,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：東洋史，中国語，芸術諸学，古文書学，敦煌文献，吐魯番文献，スタイン将来文書，ペリオ将来文書。

1. 研究開始当初の背景

(1) 代表者たちは、2002 年度～2004 年度の 3 年間、科学研究費補助金・基盤研究 B 海外「中国国内所蔵敦煌・吐魯番文献の歴史学的・文献学的研究」により、中国国家図書館、北京大学図書館、天津市歴史博物館、浙江省博物館、敦煌市博物館、敦煌研究院、および西北大学図書館などに所蔵されている敦煌・吐魯番出土漢文文献の実見調査に従事してきた。これらのコレクションは、国家図書館のそれを除き、比較的小さなコレクションであると同時に、真贋を疑わせるようなものも含まれていた。したがって敦煌・吐魯番出土漢文文献に対する正しい認識と解釈のためには、ロンドンとパリのコレクションに対しても実

見調査を行う必要が認められた。

(2) また中国国内所蔵の敦煌・吐魯番出土漢文文献の真贋を確定するため、さらには確定する視点（判断基準）を構築するためにも、それは必要であった。なぜならば、世界各地に分蔵されている敦煌・吐魯番出土漢文文献のなかでも、最も規模が大きく、かつ真品が大多数を占めているのが、ロンドンの大英図書館とパリのフランス国立図書館のコレクションだからである。

2. 研究の目的

(1) ロンドンの大英図書館とパリのフランス国立図書館に所蔵されている敦煌・吐魯番出土漢文文献の実見調査により、真品の形態

に対する基本的な認識を得る。またそれを通じて敦煌出土文献と吐魯番出土文献の差異をできるだけ明らかにする。

(2) (1)の成果を踏まえ、国家図書館蔵の敦煌出土漢文文献をはじめ、中国や日本の国内に所蔵されている敦煌・吐魯番出土漢文文献の再検討と再評価を行う。

3. 研究の方法

(1) ロンドンの大英図書館とパリのフランス国立図書館に所蔵されている敦煌・吐魯番出土漢文文献の実見調査を行う。その際、形態・様式・内容などの面から多角的な検討を行う。

(2) 中国や日本の国内に所蔵されている敦煌・吐魯番出土漢文文献については、原則として大型図録本などの写真資料に依拠しながら、その形態・様式・内容について把握する。このうち、一部については、写真によりながら釈読を行い、その成果も合わせて公表する。

(3) (2)に関わって、中国や日本の国内に所蔵されている敦煌・吐魯番出土漢文文献については、依拠する写真資料が大型図録本に収録されているものについては、そのデータベースを構築し、それを利用しながら、検討を進める。

4. 研究成果

(1) 前項3の(1)に関わっては、2005年8月にロンドンの大英図書館において、敦煌・吐魯番出土漢文文献の実見調査を、2006年8月にパリのフランス国立図書館において、敦煌出土漢文文献の実見調査を行った。この他、小規模な予備調査および補助調査を北京の中国国家図書館と、ソウルの韓国国立図書館・ソウル大学校奎章閣・東国大学校附属図書館などで行った。ロンドンとパリでの調査結果は以下の通りである。ロンドンとパリでの実見調査による敦煌・吐魯番出土漢文文献についての知見は以下の通りである(①と②が吐魯番文献、③以下が敦煌文献に関するものである)。

①「五胡」時代の吐魯番文献は、アスターナ古墓群の2区1号墓、6区1号墓、6区2号墓、および6区4号墓などから出土している。これ以外の2区と6区の墓葬も「五胡」時代のものである可能性は排除できない。ただしこれらのうち、4世紀のものは木簡1点だけで、紙の文書は5世紀に下る。また6区2号墓出土の「馬受子文書」の馬受は、カラホージャ91号墓出土の條呈文書にも名があり、同一人物の可能性が高い。2号墓からは上行文書が2点出ている。他にも、6区4号墓から「馬宝安」と書かれた絹が出土しているので、この6区全体が、馬氏の一族墓だった可能性が高い。

②麴氏高唱国時代の吐魯番文献は、アスターナ古墓群の1区2号墓、9区3号墓などから出土している。またトユク遺址からも出土例がある。このうち重要なのは、1区2号墓から出土した帳簿である。内容から7世紀の帳簿と考えられているが、年月日がなく、債権者として同じ人物や寺院が複数回登場しており、様式・内容の点で特異と言える。

③ロンドン所蔵のB.L.S.5521は『敦煌遺書総目索引新編』に「金剛般若波羅蜜経」とするが、実見の結果、「梁朝傳大士頌金剛経序」を含むことが明らかになった。

④写経を中心として定形の書体で書写されているものを中心に閲覧した。これにより、形態のなかでも、書体の変遷を明らかにすることができ、とくに北涼体から北朝体への変遷を跡付けることができる。

⑤写経でも、卷子状のもの以外に、冊子状のものがある。B.L.S.5470の場合、卷子本を用いて冊子本が作成された例である。その過程について、実見を通じて明らかにすることができたが、これにより、書写された仏経の流行を時間軸上で跡付けることを可能にする。

⑥写経における文字の修正方法について、B.L.S.5534, 5444, 5692, 5451を例に検討したところ、削り法と貼り紙法があるが、5534のように、同一経のなかで二つの方法が混用されているものもある。

⑦敦煌出土漢文文献については、IDPのデータベースにアクセスしてネット上の写真を閲覧することができるが、上記⑤や⑥については、実見調査の結果初めて明らかになった点である。しかしB.L.S.5556のように、実見しても判読できない箇所がネット上の写真では加工が加えられ、文字が判読できるものもあった。したがって実見調査と、ネットへのアクセスを並行して行う必要が確認された。

(2) 前項3の(2)と(3)に関わって、以下の成果を得た。

①『国家図書館蔵敦煌遺書』に収録されている北京の中国国家図書館の所蔵にかかる敦煌出土仏経の題記を抜き出し、釈読を行った。これはロンドンやパリに所蔵されている仏経と比較検討する基礎作業であり、英仏所蔵仏経と中国所蔵仏経の種類や作成(写経)年代を比較するための手段となる。本シリーズは2009年3月現在なお完結していないので、国家図書館のコレクションの全貌は明らかではないが、現時点では、やはり(1)③にあるような「金剛般若波羅蜜経」が多いが、それとともに、「無量壽宗要経」で題記を有するものが多く認められた。

②ロンドン所蔵の「五胡」時代の敦煌戸籍と、中国新出の吐魯番戸籍の比較検討を行った。従来、敦煌戸籍が「五胡」時代を代表する戸籍として有名であった。新出の吐魯番戸籍は

これに比べるとユニークなものとして紹介されたが、むしろ今後は吐魯番戸籍を「五胡」時代のオーソドックスな戸籍として扱い、中国戸籍史上に位置づける必要があることが確認された。

それに伴い、敦煌戸籍については、あらためてその特殊性を把握し、その解明に努める必要があるが、この問題については、画像磚や鎮墓文など、敦煌とその周辺から出土した各種文物、さらには長沙呉簡など多様な出土資料を駆使するべきであり、試みとして以下のようなことを指摘した。第一に、長沙呉簡の分析結果から、本戸籍が吏・兵の戸籍であること、居住している「塢」は防御施設であり、城外に立地していたこと、および本籍の「里」は敦煌城内にはなかったと思われることなどである。

③ロンドンやパリに所蔵されている6世紀前半の敦煌写経と、中国や日本に所蔵されている同時期の敦煌写経を総合的に検討し、真贋の分別を行いつつ、その題記から、当該時期の敦煌地域の政治・社会状況を解明できることが明らかになった。さらに写経された仏典やその題記に伺える世界観は、同時代の敦煌莫高窟の壁画のモチーフと合わせて検討する必要性を主張した。

④以下の図録本に収録されている敦煌・吐魯番出土漢文文献の一覧を作成した。

日本・書道博物館：『中村不折旧藏禹域墨書集成』／日本・寧楽美術館：『日本寧楽美術館蔵吐魯番文書』／イギリス・大英図書館：『斯坦因第三次中亞考古所獲漢文文献（非仏経部分）』／中国・中国歴史博物館：『中国歴史博物館法書大観』／中国・故宮博物院：『故宮博物院蔵文物珍品体系』／日本・出口常順蔵：『高昌残影』／中国・吐魯番博物館：『新出吐魯番文書及其研究』／中国・旅順博物館：『旅順博物館蔵トルファン出土漢文仏典断片選影』。このうち前三者については、研究代表者の旧ホームページに掲載した（現在、切断中）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計16件）

①關尾史郎，「「五胡」時代の「屬」について—トルファン出土五胡文書分類試論（Ⅱ）—」，『資料学研究』，第6号，横25-34頁，2009年3月，査読有。

②關尾史郎，「「五胡」時代，高昌郡文書の基礎的考察—兵曹関係文書群の検討を中心として—」，土肥義和（編），『敦煌・吐魯番出土漢文文書の新研究』，183-200頁，（財）東洋文庫・東洋文庫論叢第72，2009年3月，査読有。

③關尾史郎，「トルファン出土，「五胡」時

代文書の定名をめぐって—『新獲吐魯番出土文獻』の成果によせて—」，『西北出土文献研究』，第7号，67-77頁，2009年3月，査読無。

④玄幸子，「中村不折舊藏『勾道興撰搜神記』紙背文獻について」，『敦煌写本研究年報』，第3号，115-132頁，2009年3月，査読有。

⑤玄幸子，「S. 5692に見える亡名絶學箴に関連して—ある僧のノートからみる敦煌仏教の実相—」，『西北出土文献研究』，第7号，79-88頁，2009年3月，査読無。

⑥關尾史郎，「トルファン新出「前秦建元廿（384）年三月高昌郡高寧縣都郷安邑里戸籍」試論」，『人文科学研究』，第123輯，横1-19頁，2008年10月，査読無。

⑦關尾史郎，「高昌郡時代の上行文書とその行方」，藤田勝久・松原弘宣（編）『古代東アジアの情報伝達』，75-89頁，2008年4月，査読無。

⑧關尾史郎，清水はるか（編），『「國家圖書館藏敦煌遺書」所収写経題記一覧（Ⅰ）」』，『資料学研究』，第5号，横39-69頁，2008年3月，査読有。

⑨關尾史郎，「随葬衣物疏と鎮墓文—新たな敦煌トルファン学のために—」，『西北出土文献研究』，第6号，5-25頁，2008年3月，査読無。

⑩玄幸子，「BL 調査報告—IDP 公開資料とオリジナル調査の意義について—」，『西北出土文献研究』，第6号，45-53頁，2008年3月，査読無。

⑪岩本篤志，「敦煌文献の色と形—英仏蔵文献に関する近年の図録本から—附：敦煌漢文文献精細図版索引（稿）」，『資料学研究』，第5号，横17-38頁，2008年3月，査読有。

⑫鶴田一雄，「敦煌本「化度寺碑」參觀記」，『書叢』，第21号，83-89頁，2007年10月，査読無。

⑬關尾史郎，「トルファン出土文書よりみた魏氏高昌国（501~640年）の行政システムと上奏文書」，『資料学の方法を探る—情報発信と受容の視点から—』，第6号，39-46頁，2007年3月，査読無。

⑭岩本篤志，「書評：余欣著『神道人心—唐宋之際敦煌民生宗教社会史研究』」，『西北出土文献研究』，第4号，79-89頁，2007年3月，査読無。

⑮玄幸子，「『佛説天地八陽神咒經』の言語特徴について」，『西北出土文献研究』，第3号，56-66頁，2006年3月，査読無。

⑯岩本篤志，「六朝隋唐五代と日本における『靈棋經』—敦煌本・室町期鈔本を中心に—」，『資料学研究』，第3号，1-27頁，2006年3月，査読有。

〔学会発表〕（計8件）

①關尾史郎，「敦煌・吐魯番出土「五胡」戸

籍とその意義」,新潟大学国際ワークショップ「敦煌・吐魯番文献と西北地域」,2009年3月8日,新潟大学人文学部.

②玄幸子,「原件実見調査その後—IDP公開資料との比較を通じて—」(①に同じ).

③鶴田一雄,「書道史上における敦煌写本の意義」(①に同じ).

④岩本篤志,「敦煌文献における医書と占筮書」(①に同じ).

⑤玄幸子,「中国語における左移位現象の歴史的解釈について」,関西大学中国語文学会第2回大会,2008年11月29日,関西大学.

⑥關尾史郎,「トゥルファン文書と敦煌文物のあいだ」,弘前大学ワークショップ「シルクロード出土文物研究の新展開」,2007年7月15日,弘前大学人文学部.

⑦關尾史郎,「トゥルファン出土文書よりみた麴氏高昌国(501~640年)の行政システムと上奏文書」,愛媛大学公開シンポジウム「古代東アジアの社会と情報伝達」,2006年10月15日,愛媛大学法文学部.

⑧玄幸子,「佛説天地八陽神咒經」考—疑偽經如何流傳」,第7届唐代文化學術研討會,2005年10月28日,台湾・台北大学人文学院.

[その他]

<http://www.human.niigata-u.ac.jp/~ssekio>

6. 研究組織

(1) 研究代表者:

關尾史郎 (SEKIO SHIRO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号: 70179331

(2) 研究分担者:

玄幸子 (GEN YUKIKO)
関西大学・外国語教育研究機構・教授
研究者番号: 00282963

鶴田一雄 (TSURUTA KAZUO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号: 40180062

柴田幹夫 (SHIBATA MIKIO)
新潟大学・国際センター・准教授
研究者番号: 30293244

岩本篤志 (IWAMOTO ATSUSHI)
新潟大学・人文社会・教育科学系・助教
研究者番号: 80324002
(以上, 2007年度まで)

(3) 連携研究者:

玄幸子 (GEN YUKIKO)
関西大学・外国語教育研究機構・教授
研究者番号: 00282963

鶴田一雄 (TSURUTA KAZUO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号: 40180062

柴田幹夫 (SHIBATA MIKIO)
新潟大学・国際センター・准教授
研究者番号: 30293244

岩本篤志 (IWAMOTO ATSUSHI)
新潟大学・人文社会・教育科学系・助教
研究者番号: 80324002
(以上, 2008年度のみ)

(1) 研究協力者:

駒形千夏 (KOMAGATA CHINATSU)
新潟大学・人文社会・教育科学系・助手
研究者番号: 30272800